

### 第3章 調査結果

#### 1. 愛媛県海洋プラスチックごみ実態把握調査

##### 1.1. 漂着ごみ調査結果

ごみ分類一覧表を表 3-1-1、実際に回収したごみを図 3-1-1 に示した。

表 3-1-1(1) ごみ分類一覧表

大分類	必須項目	ごみ番号	オプション項目	ブラ分類
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	1	ボトルのキャップ、ふた	容器包装
	プラボトル	2	飲料用（ペットボトル）<1L	容器包装
		3	その他のプラボトル<1L	容器包装
		4	飲料用（ペットボトル）≥1L	容器包装
		5	その他のプラボトル≥1L	容器包装
		6	ストロー	製品
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	7	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	容器包装
	食品容器（ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの）	8	コップ、食器	容器包装
		9	食品容器	容器包装
	ポリ袋（透明 & 不透明）	10	食品の容器包装	容器包装
		11	レジ袋	容器包装
		12	その他プラスチック袋	容器包装
	ライター	13	ライター	製品
	シリンジ、注射器	14	シリンジ、注射器	製品
	テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）	15	テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）	製品
	製品シートや袋の破片	16	製品シートや袋の破片	製品
	硬質プラスチック破片	17	硬質プラスチック破片	製品
	ウレタン	18	ウレタン	製品
	漁具	19	ブイ（漁具）	漁具
		20	ロープ、ひも（漁具）	漁具
		21	アナゴ筒（フタ、筒）（漁具）	漁具
		22	カキ養殖用まめ管（長さ1.5cm）（漁具）	漁具
		23	カキ養殖用パイプ（長さ10-20cm）（漁具）	漁具
		24	漁網（漁具）	漁具
		25	釣りのルアー、浮き	漁具
		26	かご漁具	漁具
		27	釣り糸	漁具
		28	その他の漁具	漁具
	その他	29	たばこ吸殻（フィルター）	製品
		30	生活雑貨（歯ブラシ等）	製品
		31	花火	製品
		32	玩具	製品
		33	プラスチック梱包材	製品
		34	6バックホルダー	製品
		35	苗木ポット	製品
		36	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	製品
		37	その他	製品

※「地方公共団体向け漂着ごみ組成ガイドライン」の別紙4を改変

表 3-1-1 (2) ごみ分類一覧表

大分類	必須項目	ごみ 番号	オプション項目	ブラ分類
発 泡 ス チ ロ ー ル	コップ、食品包装	38	食品容器（発泡スチロール）	容器包装
		39	コップ、食器、食器（発泡スチロール）	容器包装
	発泡スチロール製フロート、パイ	40	発泡スチロール製フロート、パイ	漁具
	発泡スチロールの破片	41	発泡スチロールの破片	漁具
	発泡スチロール製包装材	42	発泡スチロール製包装材	容器包装
	その他	43	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	製品
		44	その他	製品
ゴ ム	ゴム	45	タイヤ	—
		46	玩具、ボール	—
		47	風船	—
		48	靴（サンダル、靴底含む）	—
		49	ゴムの破片	—
		50	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	—
		51	その他	—
ガ ラ ス ・ 陶 器	ガラス、陶器	52	建築資材	—
		53	食品容器	—
		54	ガラス、陶器の破片	—
		55	食品以外容器	—
		56	コップ、食器	—
		57	電球	—
		58	蛍光管	—
		59	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	—
		60	その他	—
金 属	金属	61	ビンのふた、キャップ、ブルタブ	—
		62	アルミの飲料缶	—
		63	スチール製飲料用缶	—
		64	金属製コップ、食器	—
		65	フォーク、ナイフ、スプーン等	—
		66	その他の缶（ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等）	—
		67	金属片	—
		68	ワイヤー、針金	—
		69	金属製漁具	—
		70	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	—
		71	その他	—
		紙 ・ ダ ン ポ ー ル	紙、ダンボール	72
73	タバコのパッケージ（フィルム、銀紙を含む）			—
74	花火			—
75	紙袋			—
76	食品包装材			—
77	紙製容器（飲料用紙パック等）			—
78	紙片（段ボール、新聞紙等を含む）			—
79	分類に無いもので多数見つかった場合には記載			—
80	その他			—
天 然 繊 維 、 革	天然繊維、革	81	ロープ、ひも	—
		82	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	—
		83	その他	—
木（木材 等）	木（木材等）	84	木材（物流用パレット、木炭等含む）	—
		85	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	—
		86	その他	—
電 化 製 品 、 電 子 機 器	電化製品、電子機器	87	電化製品、電子機器	—
		88	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	—
		89	その他	—
(参考)				
自 然 物	自然物	90	灌木（植物片を含む、径10cm未満、長さ1m未満）	—
		91	流木（径10cm以上、長さ1m以上）	—
		92	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	—
		93	その他	—

※「地方公共団体向け漂着ごみ組成ガイドライン」の別紙4を改変



1. ボトルのキャップ、ふた



2. 飲料用（ペットボトル） <1L



3. その他のプラボトル<1L



4. 飲料用（ペットボトル） ≥1L



5. その他のプラボトル ≥1L



6. ストロー



7. マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等



8. コップ、食器



9. 食品容器



10. 食品の容器包装



11. レジ袋



12. その他プラスチック袋



13.ライター



14. シリンジ、注射器



15. テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）

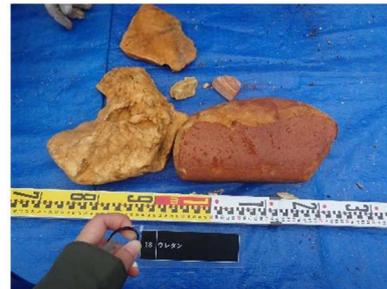
図 3-1-1 (1) 回収ごみ一覧



16. 製品シートや袋の破片



17. 硬質プラスチック片



18. ウレタン



19. ブイ (漁具)



20. ロープ、ひも (漁具)



21. アナゴ筒 (フタ、筒) (漁具)



22. カキ養殖用まめ管 (長さ1.5cm) (漁具)



23. カキ養殖用パイプ (長さ10-20cm) (漁具)



24. 漁網 (漁具)



25. 釣りのルアー、浮き



26. かご漁具



27. 釣り糸



28. その他の漁具



30. 生活雑貨 (歯ブラシ等)



32. 玩具

図 3-1-1 (2) 回収ごみ一覧



33. プラスチック梱包材



35. 苗木ポット



36. その他 (多数あったもの: 軍手)



36. その他 (多数あったもの: 布類)



38. 食品容器 (発泡スチロール)



40. 発泡スチロール製フロート、ブイ



41. 発泡スチロールの破片



42. 発泡スチロール製包装材



45. タイヤ



46. 玩具、ボール



48. 靴 (サンダル)



49. ゴムの破片



50. その他 (多数あったもの: パイプ)



52. 建築資材



53. 食品容器

図 3-1-1 (3) 回収ごみ一覧



54. ガラス、陶器の破片



55. 食品以外容器



57. 電球



58. 蛍光灯



61. ビンのふた、キャップ、プルタブ



62. アルミの飲料缶



63. スチロール製飲料缶



66. その他の缶（ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等）



67. 金属片



68. ワイヤー、針金



69. 金属製漁具



73. タバコのパッケージ（フィルム、銀紙を含む）



77. 紙製容器



78. 紙片（段ボール、新聞紙等を含む）



84. 木材（物流用パレット、木炭等含む）



87. 電化製品、電子機器



90. 灌木（植物片を含む、径10cm未満、長さ1m以上）



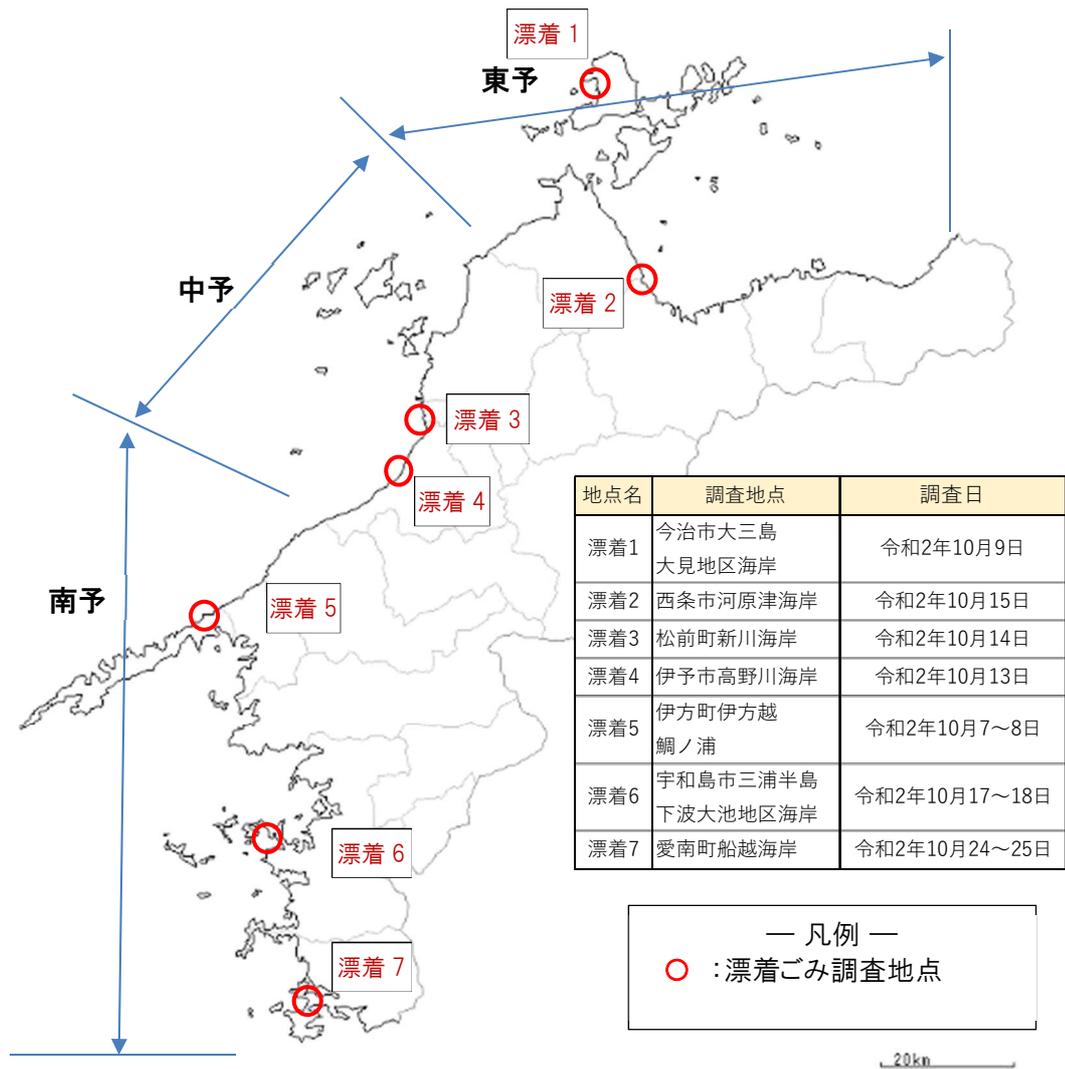
91. 流木（計10cm以上、長さ1m以上）

図 3-1-1 (4) 回収ごみ一覧

漂着ごみの調査地点は、それぞれ表 3-1-2 及び図 3-1-2 に示すとおりである。調査は、令和 2 年 10 月 7 日～10 月 25 日の期間に実施し、漂着ごみ調査に合わせてマイクロプラスチックの試料採取も行った。

表 3-1-2 漂着ごみの調査地点

地点名	調査地点	地点名	調査地点
漂着 1 (東予)	今治市大三島大見地区海岸 	漂着 2 (東予)	西条市河原津海岸 
漂着 3 (中予)	松前町新川海岸 	漂着 4 (中予)	伊予市高野川海岸 
漂着 5 (南予)	伊方町伊方越鯛ノ浦 	漂着 6 (南予)	宇和島市三浦半島下波大池地区海岸 
漂着 7 (南予)	愛南町船越海岸 	 <p>マイクログラスチック採取状況</p>	



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-2 漂着ごみ調査地点図および調査実施日

回収した漂着ごみは、表 3-1-1 に示す「プラスチック」、「発泡スチロール」、「ゴム」、「ガラス、陶器」、「金属」、「紙、ダンボール」、「天然繊維、革」、「木(木材等)」、「電化製品」、「自然物」の 10 種類 (大分類) に大別した後、同表の区分にしたがって細分別した。回収したごみの写真を図 3-1-1 に示した。

なお、調査結果は、「自然物」を除いた 9 つの大分類 (人工物) について「個数」、「重量」、「容積」の各地点の結果をとりまとめた。

(1) 大分類別の漂着ごみの状況

1) 漂着ごみの個数(個/m<sup>2</sup>)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の 1m<sup>2</sup>あたりの個数(個/m<sup>2</sup>)は、それぞれ表 3-1-3、図 3-1-3 に示すとおりである。なお、個数には破片状のものは含まれていない。

回収した漂着ごみの個数が最も多かった地点は、漂着 3 (新川海岸) の 9.04 個/m<sup>2</sup>であり、続いて漂着 6 (三浦半島下波)、漂着 5 (伊方越鯛ノ浦) の順であった。大分類別にみると、各地点とも「プラスチック」が最も多く、続いて漂着 2、3、4、5、6、7 では「発泡スチロール」が多く、漂着 1 では「ガラス、陶器」が多かった。特に「発泡スチロール」は、漂着 6 (三浦半島下波) で多く確認された。

表 3-1-3 各地点における漂着ごみの 1m<sup>2</sup>あたりの個数(個/m<sup>2</sup>)

大分類	調査海岸							個数 総計
	漂着1	漂着2	漂着3	漂着4	漂着5	漂着6	漂着7	
プラスチック	1.09	1.50	8.60	3.88	8.28	5.47	6.10	34.92
発泡スチロール	0.13	0.08	0.24	0.11	0.18	2.37	0.32	3.43
ゴム	0.01	0.03	0.02	0.04	0.06	0.15	0.05	0.36
ガラス、陶器	0.17	0.02	0.10	0.04	0.02	0.10	0.00	0.46
金属	0.09	0.07	0.04	0.15	0.12	0.56	0.09	1.11
紙、ダンボール	0.00	0.00	0.02	0.03	0.01	0.00	0.00	0.06
天然繊維、革	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.02	0.06
木(木材等)	0.02	0.00	0.01	0.03	0.07	0.04	0.06	0.23
電化製品、電子機器	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.03	0.00	0.05
総計	1.52	1.71	9.04	4.27	8.74	8.75	6.65	40.69

※個数には破片状のもの個数は含まれていない

単位：個/m<sup>2</sup>

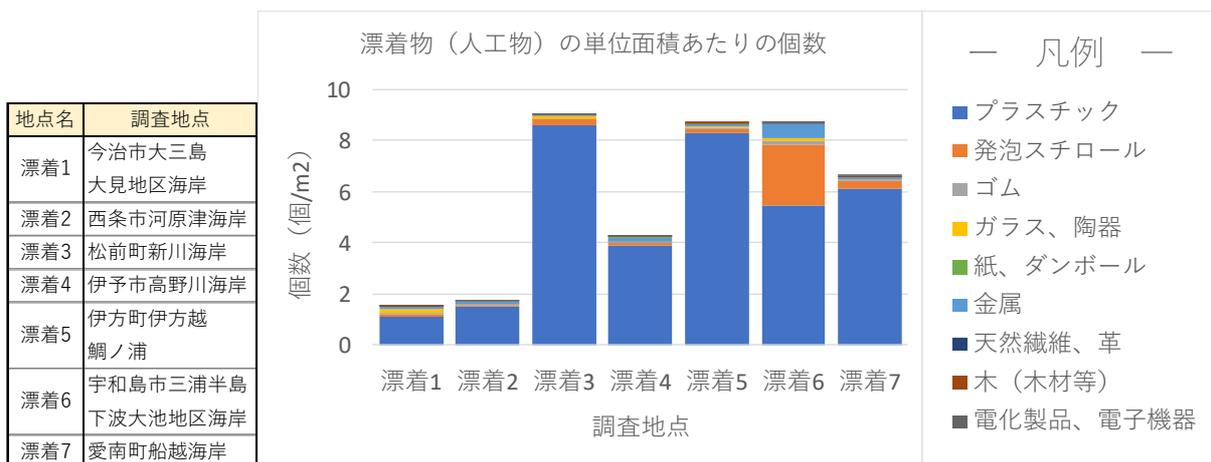


図 3-1-3 各地点における漂着ごみの 1m<sup>2</sup>あたりの個数(個/m<sup>2</sup>)

## 2) 漂着ごみの重量 (g/m<sup>2</sup>)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の 1m<sup>2</sup>あたりの重量(g/m<sup>2</sup>)は、それぞれ表 3-1-4、図 3-1-4 に示すとおりである。

漂着物の重量が最も大きかった地点は、漂着 7 (船越海岸) の 403.0 g/m<sup>2</sup> であり、続いて漂着 6 (三浦半島下波)、漂着 5 (伊方越鯛ノ浦) の順であった。大分類別にみると、漂着 2～漂着 7 の 6 地点は、「プラスチック」の重量が大きかったが、漂着 1 (大三島大見地区海岸) では「木 (木材等)」の重量が大きく、続いて「プラスチック」、  
「ガラス、陶器」の順であり、他の地点と特徴が異なっていた。

表 3-1-4 各地点における漂着ごみの 1m<sup>2</sup>あたりの重量 (g/m<sup>2</sup>)

大分類	調査海岸							重量 総計
	漂着1	漂着2	漂着3	漂着4	漂着5	漂着6	漂着7	
プラスチック	23.3	43.7	35.4	81.2	136.5	188.9	345.0	853.9
発泡スチロール	3.0	0.9	0.8	0.2	13.8	24.9	7.3	51.0
ゴム	1.6	7.7	0.5	7.9	19.0	11.5	6.6	54.7
ガラス、陶器	18.8	2.7	5.3	3.1	2.7	4.9	0.0	37.5
金属	2.5	2.6	1.7	5.5	5.9	13.1	1.1	32.4
紙、ダンボール	0.1	0.0	0.6	0.5	0.1	0.0	0.0	1.3
天然繊維、革	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.5	4.7
木 (木材等)	54.9	1.7	7.1	13.8	54.0	17.6	41.2	190.3
電化製品、電子機器	0.0	0.1	0.2	5.1	0.0	2.2	0.4	8.0
総計	104.4	59.3	51.5	117.4	232.1	266.3	403.0	1233.9

単位：g/m<sup>2</sup>

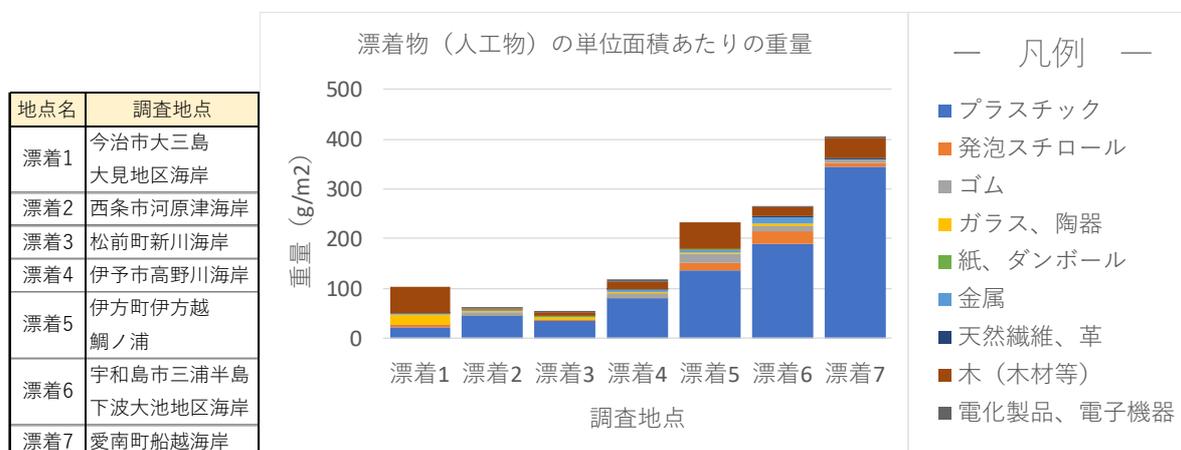


図 3-1-4 各地点における漂着ごみの 1m<sup>2</sup>あたりの重量 (g/m<sup>2</sup>)

### 3) 漂着ごみの容積(L/m<sup>2</sup>)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の1m<sup>2</sup>あたりの容積(L/m<sup>2</sup>)は、それぞれ表3-1-5、図3-1-5に示すとおりである。

漂着物の容積が最も容積が大きかった地点は、漂着7(船越海岸)の6.3 L/m<sup>2</sup>であり、続いて漂着6(三浦半島下波)の3.3 L/m<sup>2</sup>、漂着5(伊方越鯛ノ浦)の3.1 L/m<sup>2</sup>の順であった。

大分類別にみると、各地点とも「プラスチック」の容積が最も大きく、南予の3地点では、東予や中予と比べ「発泡スチロール」の容積も大きい傾向がみられた。

表3-1-5 各地点における漂着ごみの1m<sup>2</sup>あたりの容積(L/m<sup>2</sup>)

大分類	調査海岸							容積 総計
	漂着1	漂着2	漂着3	漂着4	漂着5	漂着6	漂着7	
プラスチック	0.52	0.58	0.30	0.97	2.1	2.1	5.4	12
発泡スチロール	0.18	0.017	0.007	0.012	0.67	0.93	0.48	2.3
ゴム	0.018	0.028	0.008	0.039	0.067	0.080	0.12	0.36
ガラス、陶器	0.019	0.012	0.008	0.006	0.010	0.009	0.000	0.063
金属	0.056	0.026	0.013	0.088	0.062	0.16	0.026	0.43
紙、ダンボール	0.000	0.000	0.005	0.022	0.001	0.000	0.000	0.029
天然繊維、革	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.014	0.028	0.042
木(木材等)	0.14	0.004	0.034	0.18	0.16	0.055	0.20	0.78
電化製品、電子機器	0.000	0.000	0.001	0.008	0.000	0.009	0.003	0.021
総計	0.93	0.67	0.38	1.3	3.1	3.3	6.3	16

単位：L/m<sup>2</sup>

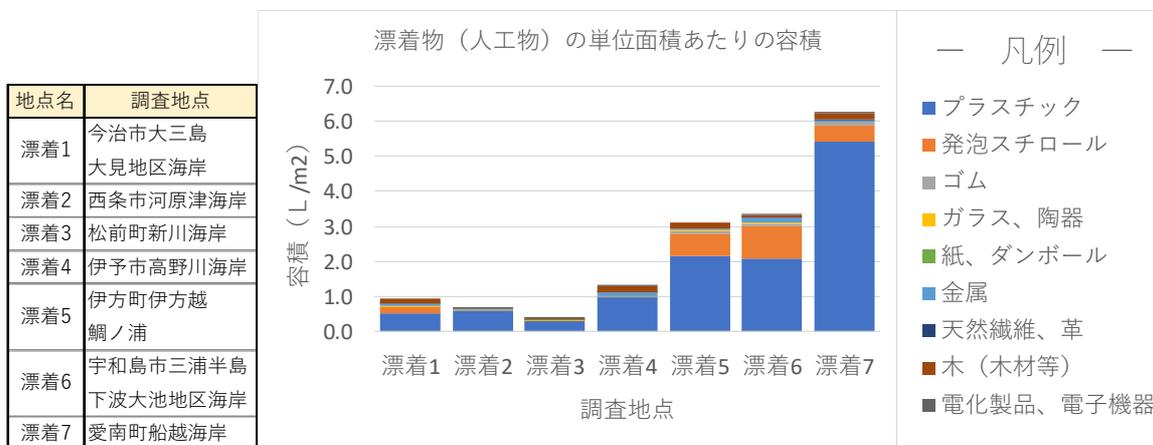


図3-1-5 各地点における漂着ごみの1m<sup>2</sup>あたりの容積(L/m<sup>2</sup>)

## (2) プラ分類別の漂着ごみの状況

大分類の「プラスチック」と「発泡スチロール」については、「プラ分類」として「漁具」、「製品」、「容器包装」の3つに大別した。これらの「プラ分類」について、個数、重量、容積別に各地点の組成をとりまとめた。

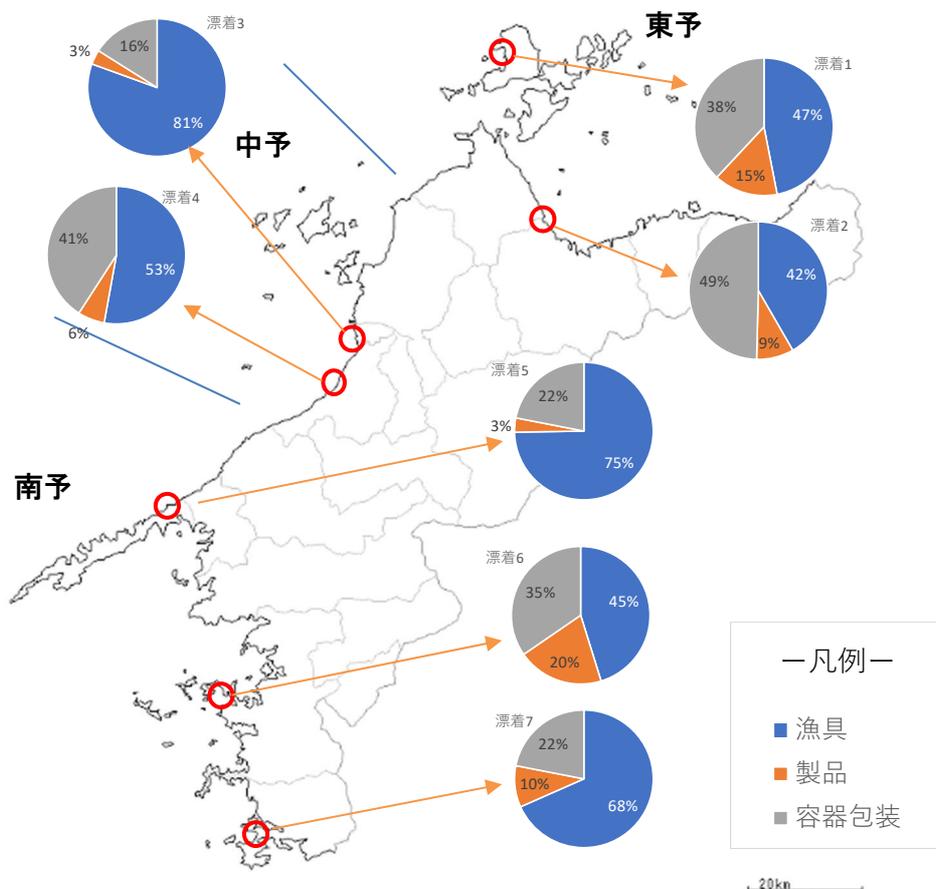
### 1) 個数別プラ分類の割合

漂着ごみ（プラスチック、発泡スチロール）の個数別プラ分類の割合は、図 3-1-6(1)に示すとおりである。

東予の漂着 1（大三島大見地区海岸）では、「漁具」が 47%と高く、次いで「容器包装」が 38%を占めていた。これに対し漂着 2（河原津海岸）では、「容器包装」が 49%と高く、次いで「漁具」（42%）の順であった。

中予の漂着 3（新川海岸）では、「漁具」が 81%を占め、特に高かったのに対し、漂着 4（高野川海岸）では「漁具」が 53%と高く、次いで「容器包装」の 41%であった。

南予では、漂着 5（伊方越鯛ノ浦）や漂着 7（船越海岸）で「漁具」がそれぞれ 75%、68%と高かったが、漂着 6（三浦半島下波）では「漁具」や「容器包装」の他、「製品」の割合が 20%と他の地点より高かった。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-6(1) 漂着ごみの個数別プラ分類の割合

a) 「漁具」の個数別内訳 (図 3-1-6(2))

「漁具」の個数別内訳は、漂着 1 と漂着 2 では「カキ養殖用のまめ管(長さ 1.5cm)」の割合が 46～57%を占め、次いで「カキ養殖用パイプ(長さ 10～20cm)」が 26～27%であった。漂着 3 では「カキ養殖用のまめ管(長さ 1.5cm)」の割合が 92%とそのほとんどを占めていたのに対し、漂着 4 と漂着 5 では「カキ養殖用パイプ(長さ 10～20cm)」がそれぞれ 70%、77%を占め、カキ養殖用のまめ管(長さ 1.5cm)」は 20%前後と似た傾向であった。漂着 6 では「発泡スチロールの破片」の割合が 62%と高く、漂着 7 では「カキ養殖用パイプ(長さ 10～20cm)」(54%)に次いで「ロープ、ひも」の割合が 30%を占めていた。瀬戸内海側(漂着 1～5)および船越海岸(漂着 7)においてはカキ養殖に用いられる漁具の割合が高い結果となった。

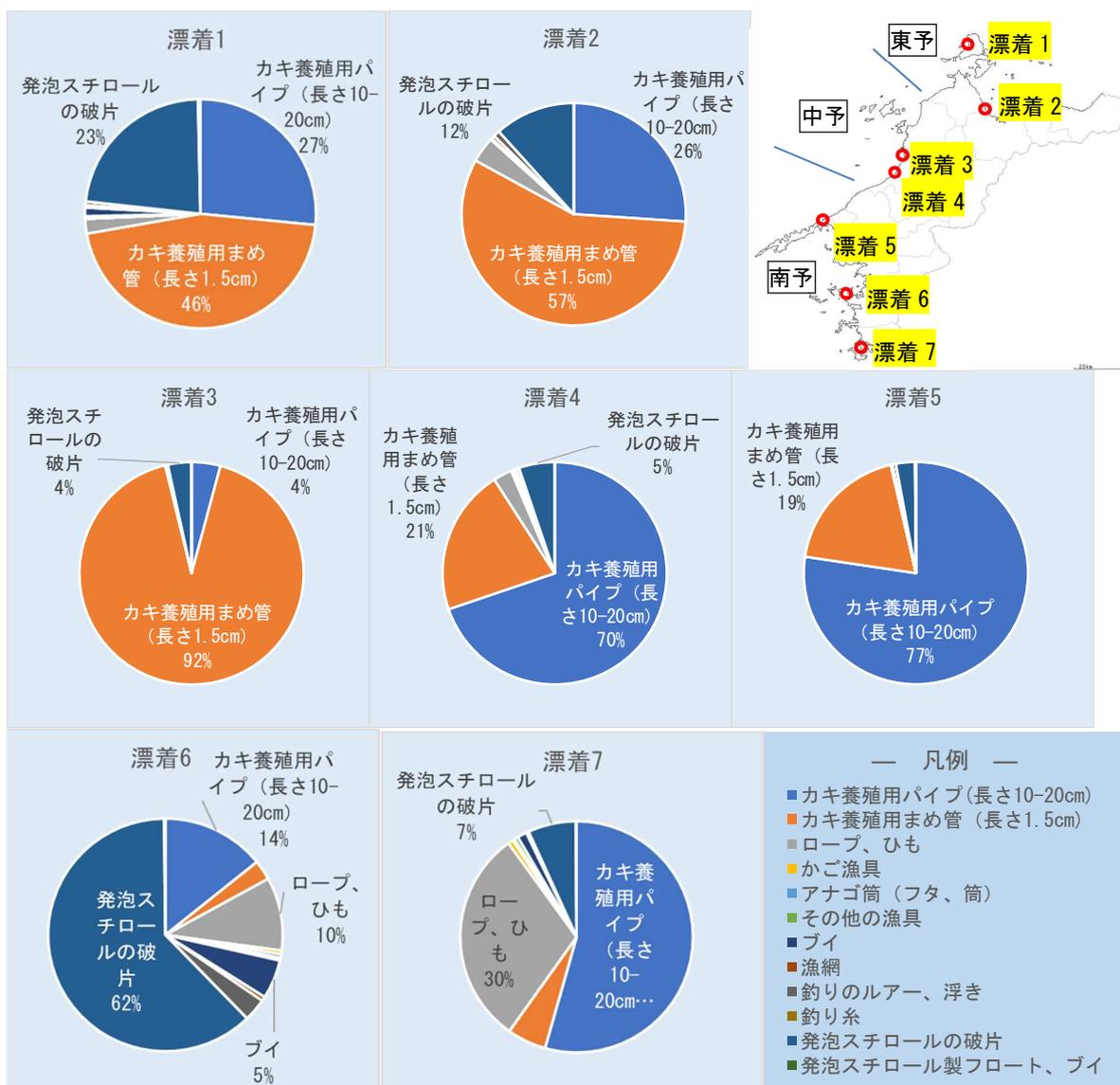


図 3-1-6(2) 漂着ごみの「漁具」の個数別内訳

b) 「製品」の個数別内訳 (図 3-1-6(3))

「製品」の個数別内訳をみると、漂着 2、漂着 3、漂着 4 及び漂着 5 では、「ストロー」の割合が高かったのに対し、漂着 1 では「ライター」や「生活雑貨」の割合が高く、漂着 7 では「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」が 40%と高かった。一方、漂着 6 では、「ストロー」「ライター」「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」が 19~24%と概ね同じ割合であった。

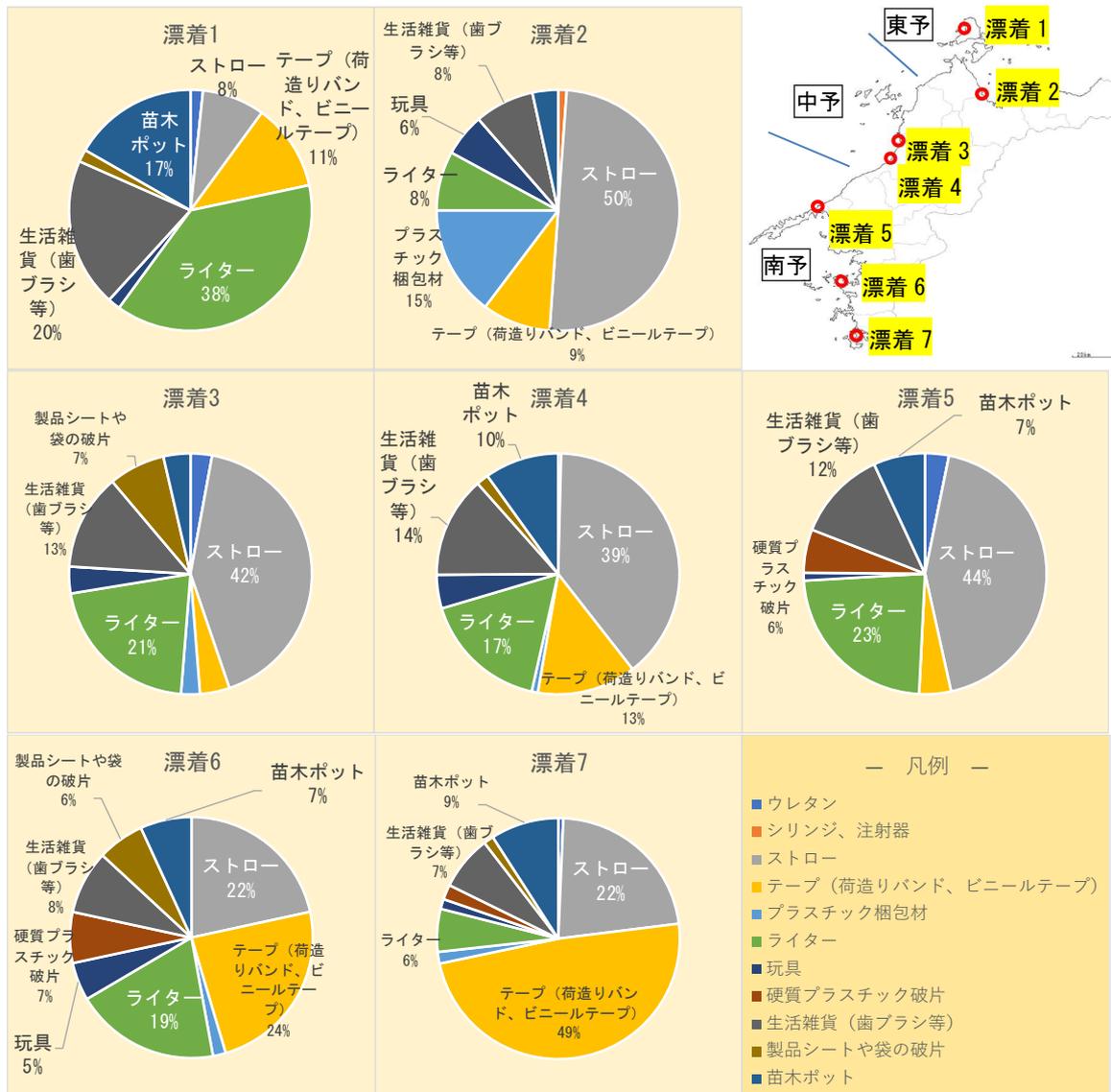


図 3-1-6(3) 漂着ごみの「製品」の個数別内訳

※「製品」の個数別内訳では、「その他(分類に無いもの含む)」は含まれていない。

c) 「容器包装」の個数別内訳 (図 3-1-6(4))

「容器包装」の個数別内訳をみると、漂着1では「飲料用(ペットボトル)<1L」の割合が高かったのに対し、漂着2～漂着6では「ボトルのキャップ、ふた」の割合が高かった。漂着7では「その他プラスチック袋」の割合が高く、東予の島嶼部(漂着1)及び南予の南側(漂着7)と、他の5地点(漂着2～6)ではやや傾向が異なっていた。

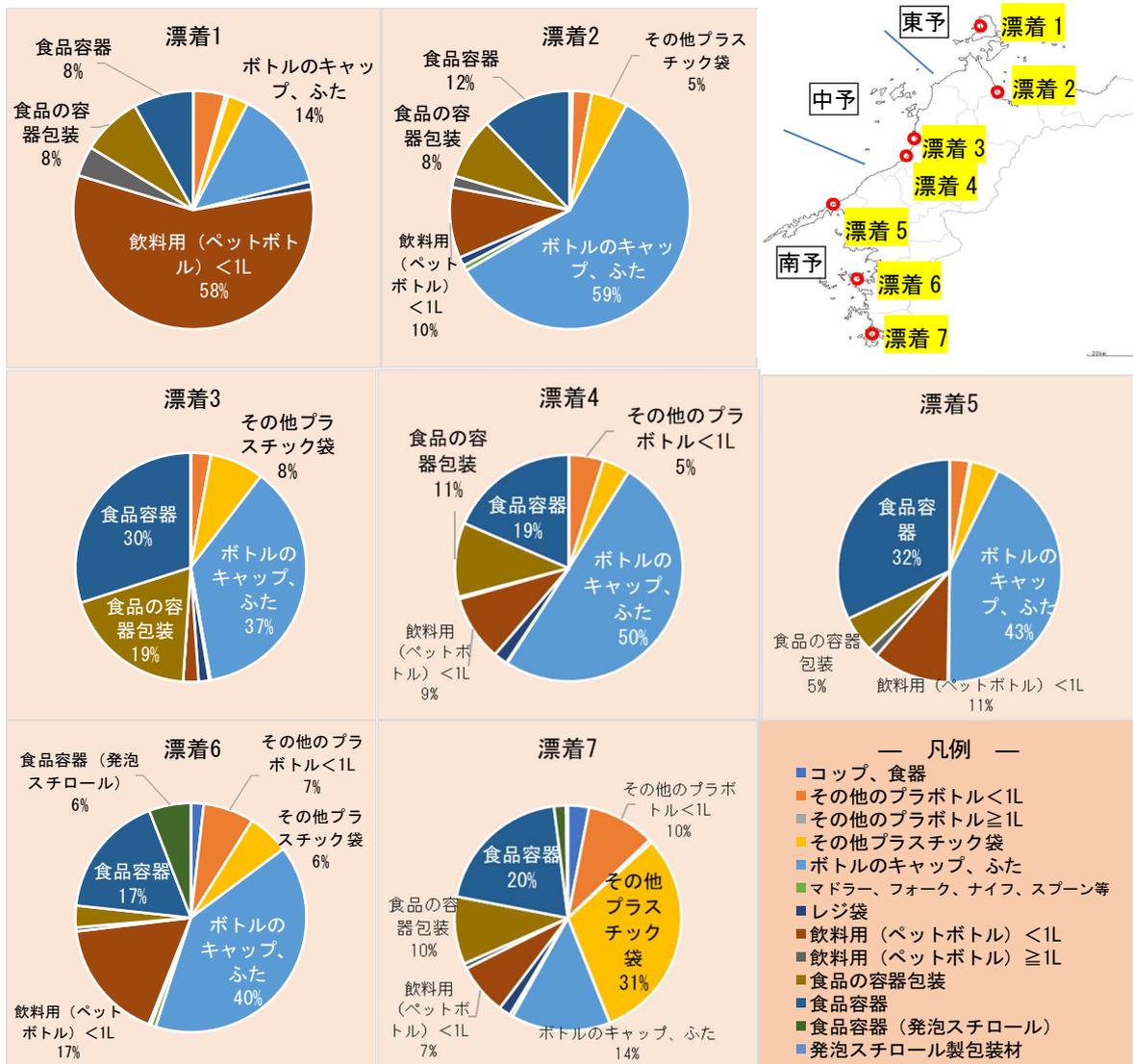


図 3-1-6(4) 漂着ごみの「容器包装」の個数別内訳

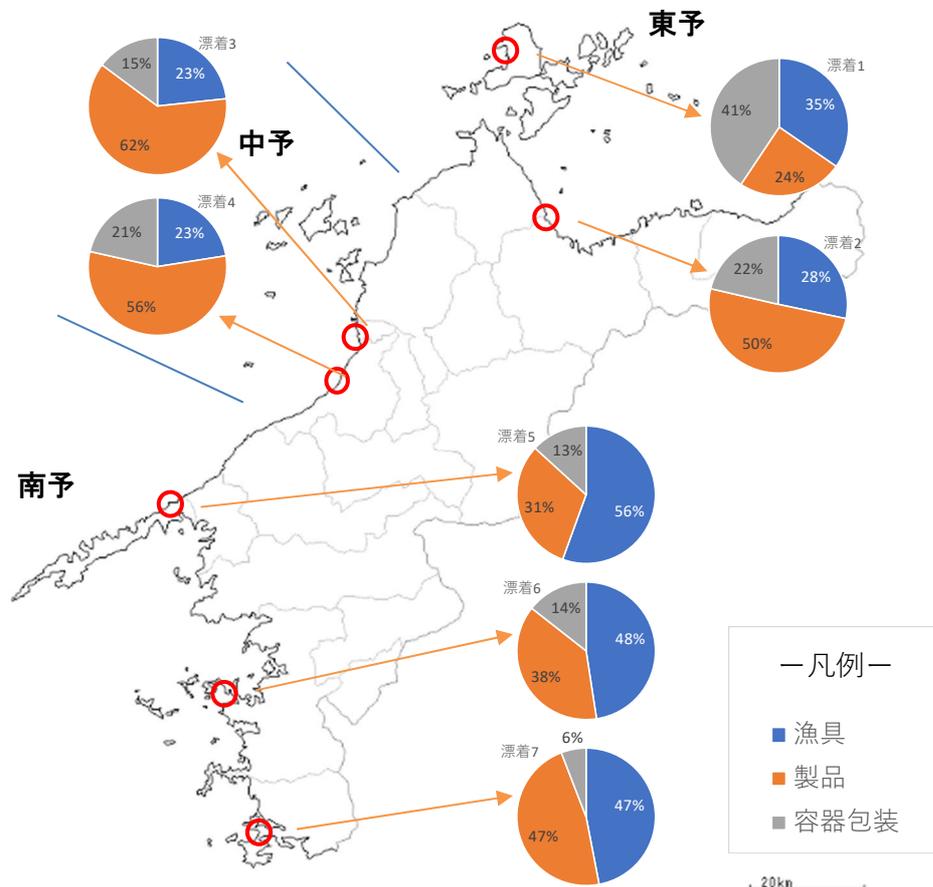
## 2) 重量別プラ分類の割合

漂着ごみ（プラスチック、発泡スチロール）の重量別プラ分類の割合は、図 3-1-7(1)に示すとおりである。

東予の漂着 1（大三島大見地区海岸）では、「容器包装」が 41%、「漁具」が 35%、「製品」が 24%であり、3 項目の割合が概ね同じであった。これに対し漂着 2（河原津海岸）では、「製品」が 50%を占め、次いで「漁具」（28%）、「容器包装」（22%）の順であった。

中予では、漂着 3（新川海岸）と漂着 4（高野川海岸）のいずれも「製品」の割合がそれぞれ 62%、56%と高く、次いで「漁具」、「容器包装」の順であった。中予 2 地点は、東予の漂着 2（河原津海岸）と傾向が似ていた。

南予では、3 地点とも「漁具」（47~56%）の割合が、東予や中予と比べると高くなる傾向がみられた。「製品」の割合は 31~47%、「容器包装」の割合は 6~14%であった。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

図 3-1-7(1) 漂着ごみの重量別プラ分類の割合

a) 「漁具」の重量別内訳 (図 3-1-7(2))

「漁具」の重量別内訳は、漂着 1、漂着 2、漂着 7 では「ロープ、ひも」の割合が高かったのに対し、漂着 3 では「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」の割合が高く、漂着 4 と漂着 5 では「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」、漂着 6 では「ブイ」の割合が高かった。

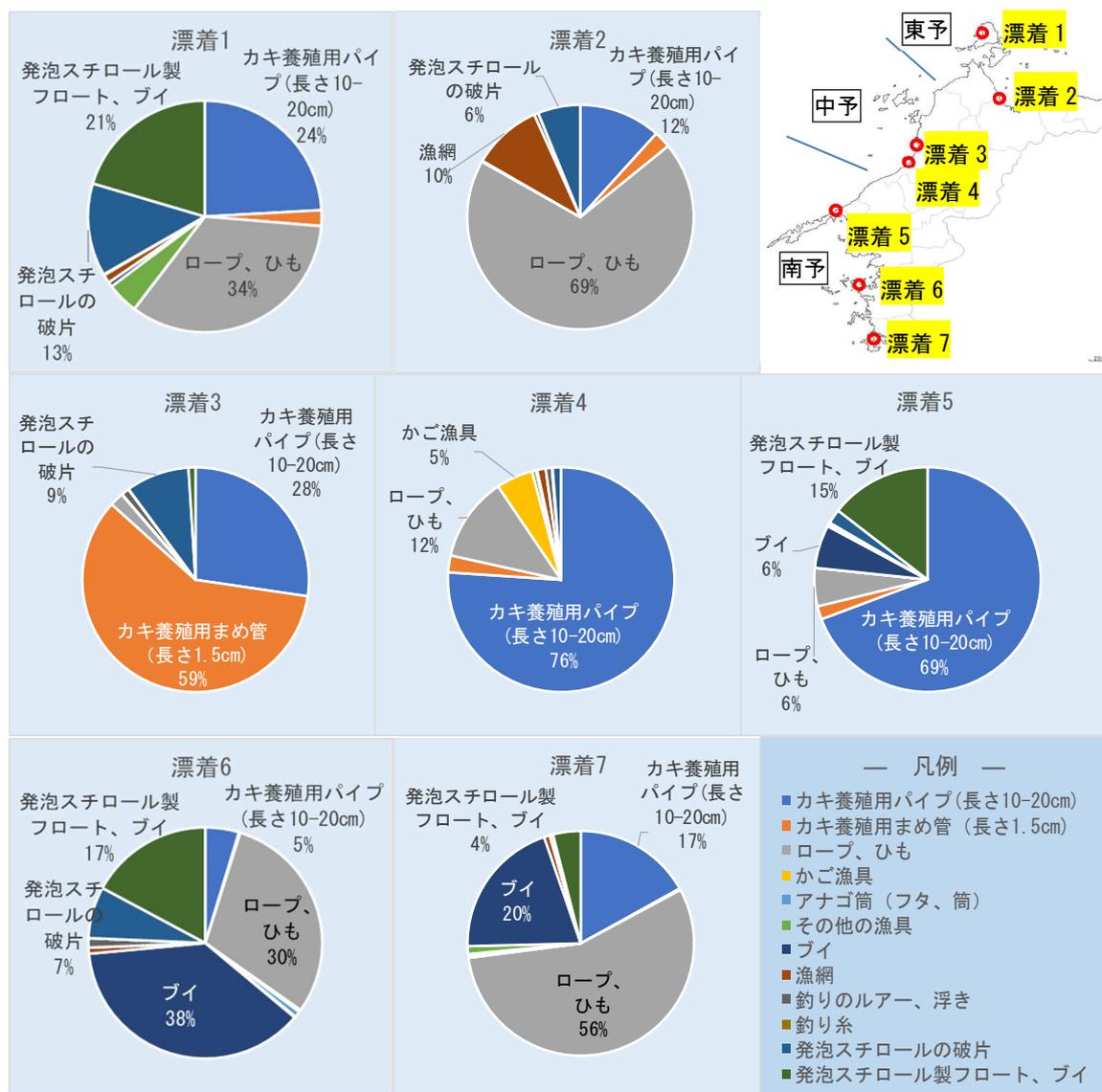


図 3-1-7(2) 漂着ごみの「漁具」の重量別内訳

b) 「製品」の重量別内訳 (図 3-1-7(3))

「製品」の重量別内訳は、漂着1と漂着3では「ライター」の割合が高く、漂着2では「生活雑貨」、漂着4では「製品シートや袋の破片」、南予の漂着5～漂着7では「硬質プラスチックの破片」の割合が高かった。

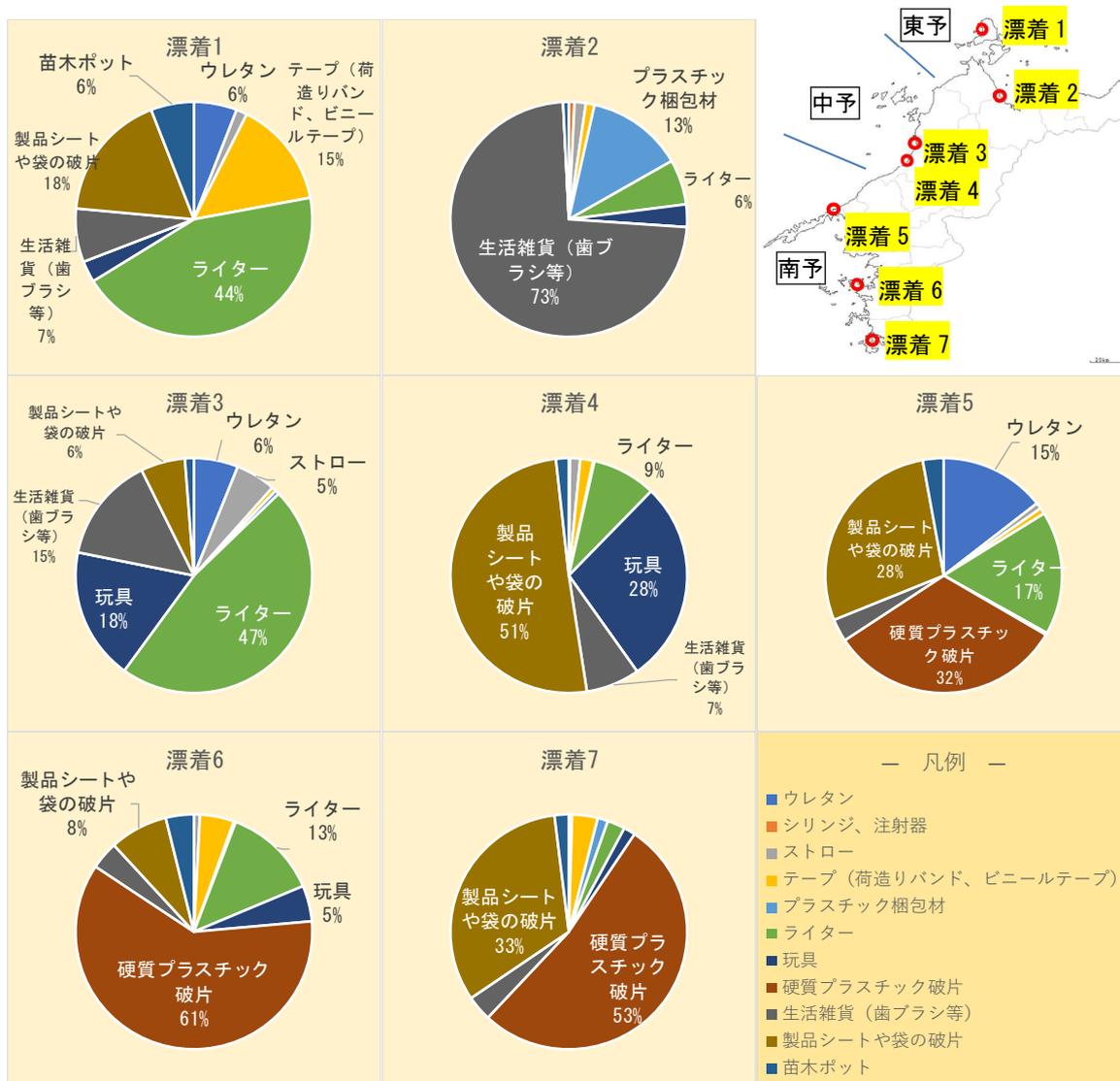


図 3-1-7(3) 漂着ごみの「製品」の重量別内訳

※「製品」の重量別内訳では、「その他 (分類に無いもの含む)」は含まれていない。

c) 「容器包装」の重量別内訳 (図 3-1-7(4))

「容器包装」の重量別内訳は、漂着 1、漂着 5 及び漂着 6 では「飲料用(ペットボトル)<1L」の割合が高かった。中予の漂着 3、漂着 4 の組成は比較的類似しており、「その他のプラボトル<1L」「ボトルのキャップ、ふた」「飲料用(ペットボトル)<1L」の割合が同程度であった。東予の漂着 2 では、「その他のプラスチック袋」の他、「食品の容器包装」の割合が、他の地点と比べると高い傾向がみられた。

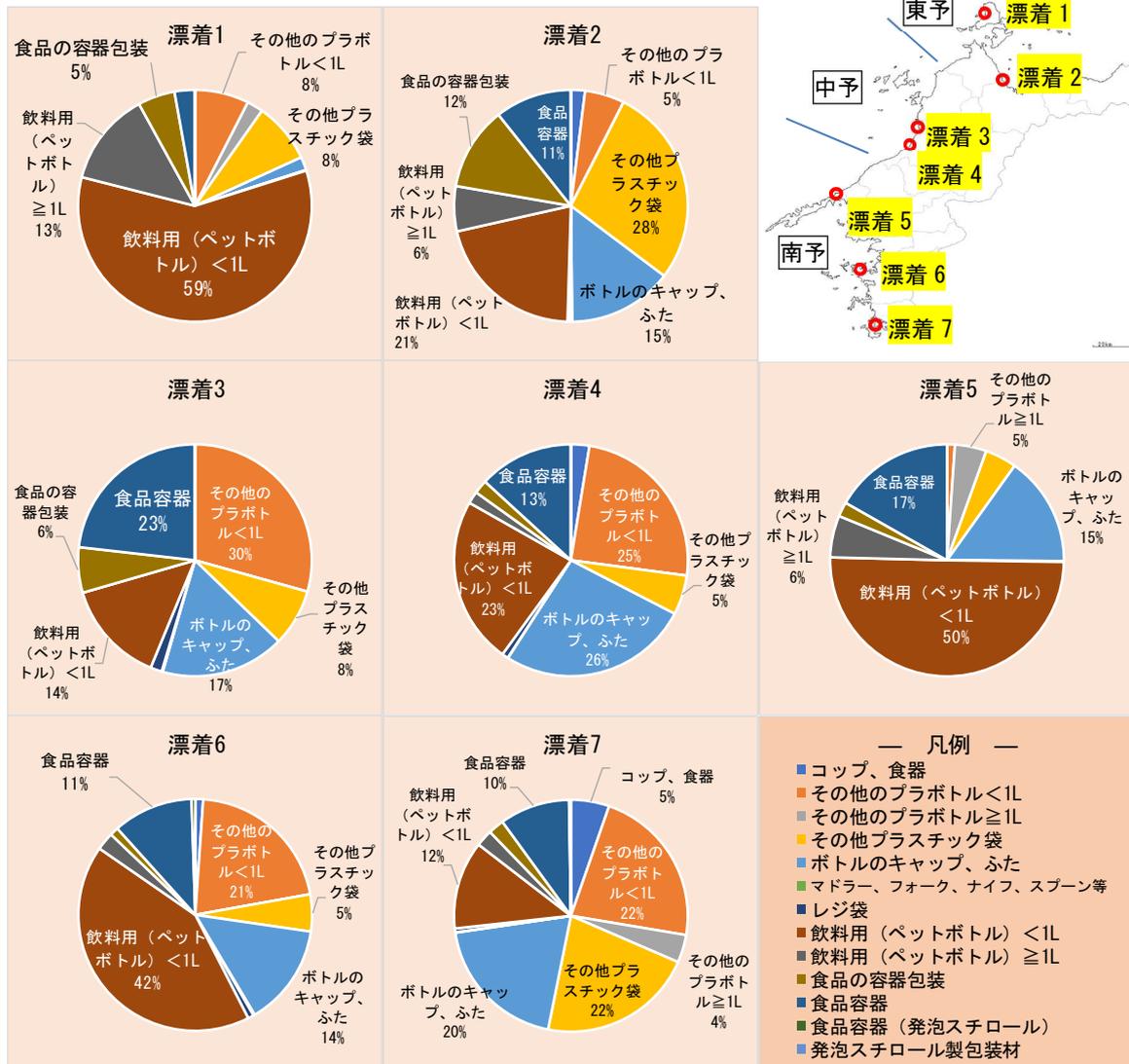


図 3-1-7(4) 漂着ごみの「容器包装」の重量別内訳

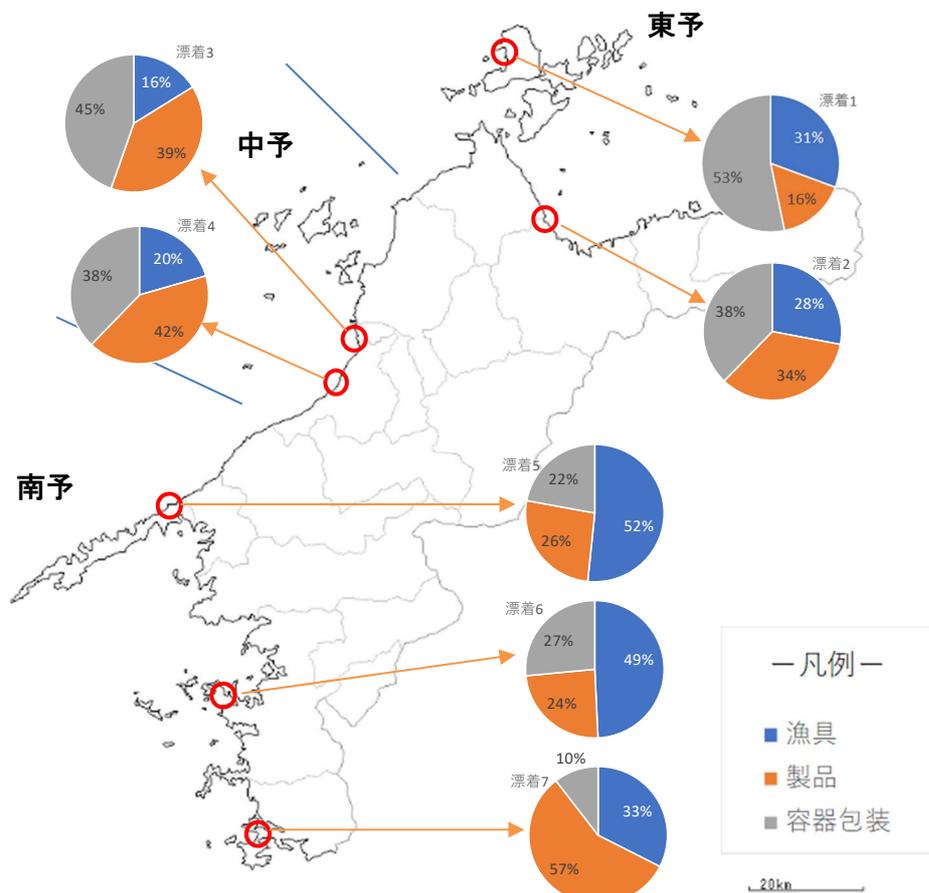
### 3) 容積別プラ分類の割合

漂着ごみ（プラスチック、発泡スチロール）の容積別プラ分類の割合は、図 3-1-8 に示すとおりである。

東予の漂着 1（大三島大見地区海岸）では、「容器包装」が 53%を占め、「漁具」が 31%、「製品」が 16%であった。これに対し漂着 2（河原津海岸）では、「製品」が 38%、次いで「容器包装」（34%）、「漁具」（28%）の順であった。

中予の漂着 3（新川海岸）では、「容器包装」が 45%と最も高く、次いで「製品」（39%）、「漁具」（16%）の順であった。漂着 4（高野川海岸）では、「製品」が 42%と最も高く、次いで「容器包装」（38%）、「漁具」（20%）の順であった。容積別にみると、中予 2 地点は、東予の漂着 2（河原津海岸）と傾向が似ており、「製品」や「容器包装」の割合が高い傾向がみられた。

南予では、漂着 5（伊方町伊方越鯛ノ浦）と漂着 6（三浦半島下波）で「漁具」がそれぞれ 52%、49%と高かったのに対し、漂着 7（船越海岸）では「製品」が 57%を占めていた。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

図 3-1-8 漂着ごみの容積別プラ分類の割合

a) 「漁具」の容積別内訳 (図 3-1-9(1))

「漁具」の容積別内訳は、漂着 1 では「発泡スチロール製フロート、ブイ」(71%)の割合が顕著に高く、漂着 2 では「ロープ、ひも」と「魚網」の割合がそれぞれ 46%と 42%、漂着 3 では「かき養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」の割合が高かった。漂着 4 と漂着 5 では、「かき養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」の割合が 46~51%であったが、漂着 4 ではこの他「かご漁具」の割合が 26%であったのに対し、漂着 5 では「発泡スチロール製フロート、ブイ」が 46%を占めていた。漂着 6 では、発泡スチロール製の漁具の割合が高かった他、漂着 7 では、「ロープ、ひも」や「フロート」や「ブイ」の割合が高かった。

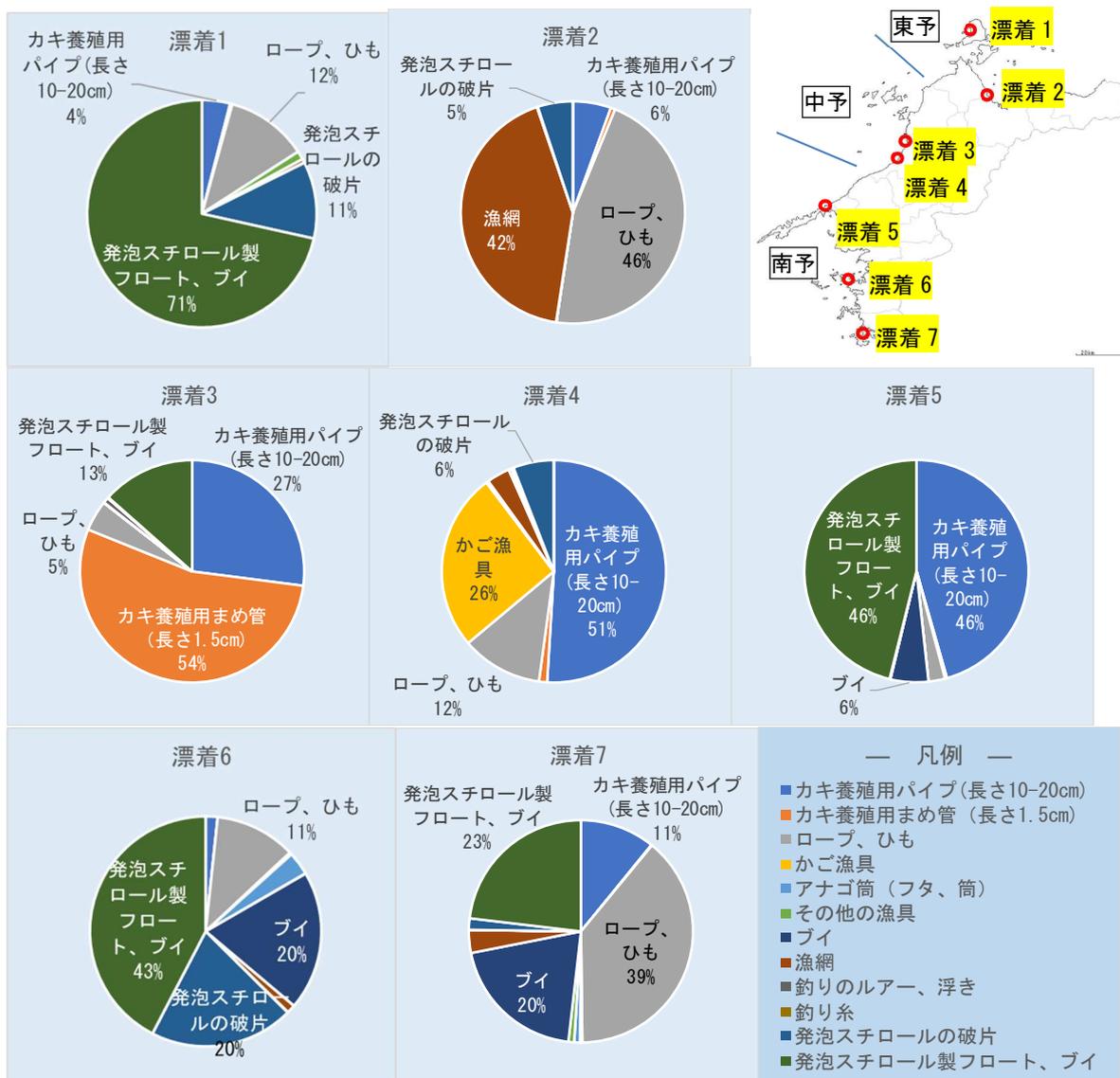


図 3-1-9(1) 漂着ごみの容積別内訳 (漁具)

b) 「製品」の容積別内訳（図 3-1-9(2)）

「製品」の容積別内訳は、漂着 1、漂着 4、漂着 5 及び漂着 7 では、「製品シートや袋の破片」の割合が高かった。漂着 2 では、「プラスチック梱包材」の割合が 56%と高く、漂着 6 では「硬質プラスチック破片」の割合が高かった。

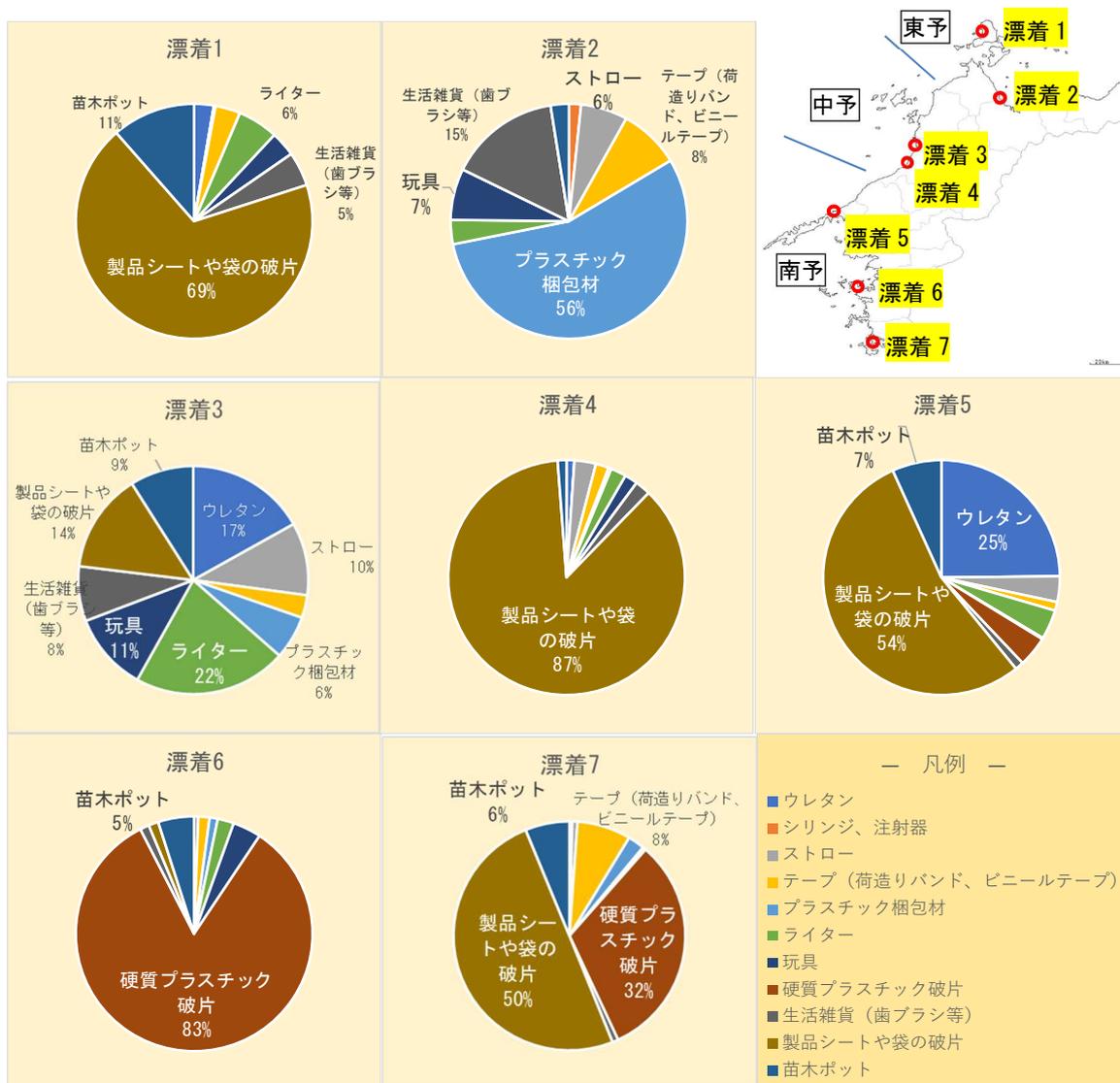


図 3-1-9(2) 漂着ごみの容積別内訳（製品）

※「製品」の容積別内訳では、「その他（分類に無いもの含む）」は含まれていない。

c) 「容器包装」の容積別内訳 (図 3-1-9(3))

「容器包装」の容積別内訳は、「飲料用(ペットボトル)<1L」の割合が、漂着 1、漂着 2、漂着 4～漂着 7 で高かった。漂着 3 では、「食品容器」の割合が 34%と最も高く、「ボトルのキャップ、ふた」の割合(12%)も、他の 6 地点と比べると高かった。

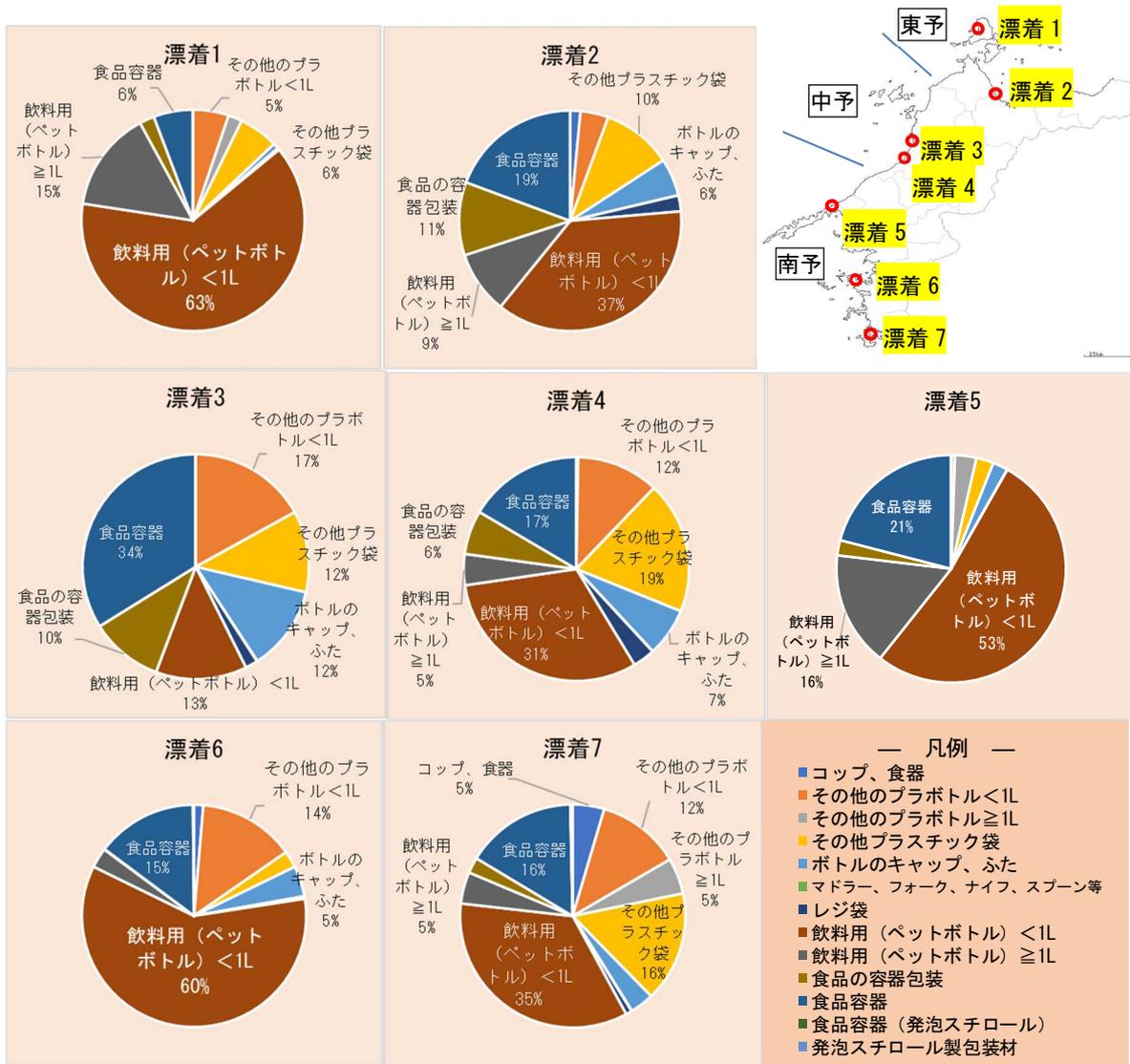


図 3-1-9(3) 漂着ごみの容積別内訳 (容器包装)

### (3) 各漂着調査地点の特徴

漂着ごみは、海岸線（汀線）方向の幅を 50m として、調査地の海岸汀線から後背地（堤防や傾斜地がある場合はその際、植生が存在する場合はその際）までを調査範囲として設定した。

各調査地点は、漂着 1～漂着 4 が砂浜、漂着 5～漂着 7 は石浜であった。海岸で漂着ごみが多く存在したのはいずれも満潮線付近であった。

漂着ごみのうち、大分類のプラスチック及び発泡スチロールに着目し、以下に各調査地点の特徴を述べる。

#### 1) 漂着 1（今治市大三島大見地区海岸）

海岸と後背地の境界線は防波堤となっており、その防波堤の前面付近に植物が生えていた。

漂着ごみは、海岸の満潮線から植生付近に多く存在していた。

調査は、令和 2 年 10 月 9 日（金）に実施した。調査時は台風 10 号接近していたが、東寄りの風であったため、風や波の影響は、ほとんどない中での調査となった。

この海岸の特徴は、プラボトル（特に飲料用ペットボトル）のほか、漁具類（ロープ、ひも、カキ養殖用パイプ、発泡スチロールブイ）も比較的多く確認された。



漂着 1（大三島大見地区海岸）の主なプラスチックごみ

## 2) 漂着 2 (西条市河原津海岸)

調査は、令和2年10月15日(木)に実施した。

プラスチックの割合が高く、ペットボトルやふた、食品容器や容器袋、漁具(カキ養殖用資材、ロープ、ひも、魚網)などが多かった。



漂着 2 (河原津海岸) の主な漂着ごみ

### 3) 漂着3 (松前町新川海岸)

調査は、令和2年10月14日(水)に実施した。

プラスチックごみの個数が多く、そのほとんどがカキ養殖用まめ管であった。その他、ストローやライター、食品容器や包装容器等が多かった。



漂着3 (新川海岸) の漂着ごみ

#### 4) 漂着 4 (伊予市高野川海岸)

調査は、令和2年10月13日(火)に実施した。

漁具はカキ養殖資材、ペットボトル、製品シート、生活雑貨が多かったほか、コンテナケースやかご等の製品の破片(不明なもの含む)等も多く確認された。

生活雑貨では、洗剤用の計量スプーンの数が目立った。



漂着 4 (高野川海岸) の漂着ごみ

## 5) 漂着 5 (伊方町伊方越鯛ノ浦)

調査は、令和2年10月7日(水)～8日(木)に実施した。

プラスチックではカキ養殖資材や飲料用ペットボトルが多かったが、漁業用のブイ(プラスチック、発泡スチロール)のほか、タイヤ等も確認された。その他、かごやバケツ、クーラーボックスなどの大きな製品の破片なども多かった。



漂着 5 (伊方越鯛ノ浦) の漂着ごみ

## 6) 漂着 6 (宇和島市三浦半島下波大池地区)

調査は、令和2年10月17日(土)～18日(日)に実施した。

飲料用ペットボトルが多くを占めていたほか、漁業用のブイ (プラスチック、発泡スチロール) が多かった。この周辺海域では、養殖業が盛んであることから、荒天時に流出した漁具の漂着が多い可能性がある。

なお、他の地点と比べ、カキ養殖用まめ管やパイプの数は少なかった。この地点は三浦半島の南岸側に位置しており、瀬戸内海 (北) 方向から宇和海に漂流してくるカキ養殖資材が漂着しにくい地形であるためと考えられた。



漂着 6 (三浦半島下波) の漂着ごみ

## 7) 漂着7 (愛南町船越海岸)

調査は、令和2年10月24日(土)～25日(日)に実施した。

漂着ごみの量が最も多い地点であり、漁具(プラスチックブイ、発泡スチロールブイ、ロープ、カキ養殖用パイプ)が多かったほか、破損したクーラーボックス、かご・コンテナ等のプラスチック製品も多くみられた。

このほか、他の地点と比べると園芸用又は農業用資材(苗木ポットや植木鉢、肥料用袋等)、木材も多かった。



漂着7 (船越海岸) の漂着ごみ